



190号

2014 / 1/1

日中文化交流市民サークル「わんりい」
東京都町田市能ヶ谷7-32-12 田井方
〒195-0053 TEL&FAX:042-734-5100
<http://wanli-san.com/>
Eメール:wanli@jcom.home.ne.jp
◆「わんりい」HPのアドレスが上記になりました。

新年明けまして
おめでとうございます。



「昆劇の中の関羽(左)と周倉 日中平和友好条約締結31周年及び北京市・東京都友好都市提携30周年記念公演にて 2009年11月撮影
右記記念公演の為に招聘され、来日した「中国北方昆劇団」公演の折、わたしは公演の公式カメラマンとして依頼された。昆劇は世界無形文化遺産であり、京劇のルーツでもあると言われている。写真は演目「三国志」単刀会」の関羽(左)と家臣の周倉のシーンである。関羽が周倉を連れて船に乗り長江を渡る。関羽は船上から江水の流れを眺め、赤壁の戦いを思い出した。周倉は「豊かな水ですな」と嘆く。すると関羽は「周倉よこれは水ではない、20年間流れども尽きぬ英雄の血だ」と言うのだ。
在日華人向け新聞「陽光導報」編集者 劉 怡祥

新年号の目次は、最終ページに掲載してあります

あけましておめでとうございます。

2013年は、日中両国にとって、余り良い年ではありませんでした。両国間には、いろいろ複雑で難しい問題があり、早急に解決と言うことは望めないかも知れませんが、そういう時期だからこそ、専門家とは別に、我々一般市民の間で相互理解を深め、2014年の日中関係が少しでも良くなるように、少なくとも悪くなるのを防ぐよう、ささやかな努力をしたいものです。

人々を理解するのは、その人々のことを知るのが第一歩と言います。その点、ちょっと手前味噌になりますが、'わんりい'の活動も外国を知り、外国人を理解するばかりでなく、外国の人々に日本を知り日本人と仲良くなってもらう為に、少しばかり貢献していると自負しています。

二国間で、お互いに相手の国民をどう思うかと訊ねる調査がありますが、日中間では相手方を好きと答える人の割合は多くないようです。しかし、聞く所によると、日本に留学したり、日本に住んだことのある中国人の中では、日本が好きと答える人の割合は断然高いそうです。これ等も、知ることで相手のよさを理解することが出来るという典型でしょう。一般に外国を知る時はメディアの報道に頼りますが、この報道の読み方にコツが必要なことを最近、改めて考えさせられました。

以前北京に滞在している時、首相の靖国参拝に反対する反日デモが北京で頻発することがありました。その時、日本の友人達からは、「なるべく出歩かないように」とか「外では日本語を話さないように」とか、いろいろ心配してくださるメールを頂きましたが、私の住む所では何の変化も感じられず、日本からのメールに違和感を覚えました。

その後も、もっと大きな反日運動が繰り広げられ、日本料理店が焼討ちにあった、路上の日本車がひっくり返されると写真つきで報道された時期に、友人が偶々中国を訪問しなければならないケースが何回もあり、そのたびに、『日本人に対して厳しい雰囲気』と報道されていたけれど、普段と余り変わりなかった』との報告を聞いたものでした。

そんな訳で、新聞テレビの報道は「真実には違

ないが、局地的な様子を伝えるもの』と考える習慣が出来ていたはずなのに、今回の北京の大気汚染の報道には、思わず過剰な反応をして、日本製のマスクを大量に買い込んでお土産として持って行きました。前回お話したように今回の滞在期間中は、天候に恵まれて3日間でマスクをした人に行き会ったのは10人足らず、殆どがファッションとしてマスクを楽しんでいる人達でした。

よく「犬が人間を噛んでもニュースにはならないが、人間が犬を噛めばニュースだ」と言われます。考えてみれば、通常とは違う空気の汚れが起ったので、ニュースとして報道されたもので、日常的にあんな状態なら、もはやニュースでも何でもありませんものね。

北京の大気汚染のニュースは、「最近、北京の大気汚染が進んでいて、時折この写真のような現象が起るようになってきている」と読むべきだったのです。北京の友人達も、「最近は大気汚染の気になる日が多くなって、人体への影響も心配され出した」と話しています。北京の特派員も、きっとそんな感覚で記事を送ったのでしょう。あの写真を見て、「北京は何時もこんな状態なのだ」と考えたのは、私の勇み足だったのです。

この場合、報道は正しかったのに、読者が読み違ったケースですが、テレビ等では、時折、所謂「やらせ」の映像が流されることがあるので気をつけなければなりません。

先日、中国が余り好きでない友人が、「列車の中で子供にオシッコをさせて、注意した人と口論になり、周りの人も口を出して大騒ぎで議論していた」と話していました。今時、列車内(座席の傍)でオシッコをさせる親なんて、ましてやそれを擁護する乗客がいるなんて考えられませんが、中国を余り好きでない、従って現在の中国に対する知識も余り無い人が見ると、「だから中国は嫌いよ!」と言うことになるのでしょうか。

まさに、「報道、恐るべし」と言うところです。こんな映像を流すテレビ局もテレビ局ですが、それを見る我々も、批判出来るだけの知識と、真実を見抜く目を養わなくてはならないと考えました。

大人物の考えていることは、普通の人間には知るよしもありません。高遠で想像もつかないのです。

今回のテーマ「鴻鵠の志」はそのような意味を持ったエピソードです。因みに、鴻は“おおとり”、鵠は“くぐい”(白鳥の古名)で、ともに大きな鳥で、大人物のたとえになっています。

辞書には次のように載っています

▲小学館 デジタル大辞典：

「鴻鵠の志：〈史記^注陳渉世家から〉大人物の志。壮大な考えのたとえ。大鴻の志」

尚、この記載のあとに慣用句として“^{えんじやくいずく}燕雀安んぞ鴻鵠の志を知らんや”が紹介されています。

▲小学館 中日辞典：

四字熟語としての“鴻鵠の志”の記載はありませんでした。

北京・光明日報出版社 発行の「中華成語故事」に“鴻鵠の志”の記載がありますので、今回はその資料を参考に記事を作成いたしました

この成語の出自は〈史記・陳渉世家〉の陳渉嘆息曰：“嗟乎！燕雀安知鴻鵠之志哉！”の部分です。

(ああ！燕や雀はどうして鴻や鵠のような大きな鳥の志を理解できようか！)



秦朝の末年は統治者が残虐非道で人民に対しさまざまな収奪や抑圧を行いました。農民はすでに莫大な租税を納めさせられていた上に宮殿や墳墓の建造や長城の修築にかりだされていました。また、秦朝の法律は大変残酷な

もので、一つの犯罪で処刑されると連座する多くの親戚や友人関係の人までも一緒に処刑されるという酷いものでした。

そんなありさまであったので人々の生活は大変苦難に満ちたものでした。当時、貧しくて身分の低い日雇農民出身の陳勝(即ち陳渉)という者が秦朝の過酷な政治によって人民が大変苦しい生活をしているのを見て、何とかそのような状況を改善しようと決心しました。

そしてある日、陳勝と他の農民たちが一緒に農作業をし、その折の食事の時に農民たちは目下の苦しい日々のことを話し始め、心中の憤懣やるかたないというのに、生活をよくする方法が全然ないと言って嘆いているのを聞いて、陳勝は皆に言いました。

「仮にだが、もし今後我々の中の誰かが栄華富貴を享受するようになっても、その者と我々は互いのことを忘れないようにしようじゃないか」

農民たちはそれを聞いて笑って言いました。

「我々は皆日雇の農民じゃないか、誰が富貴になんぞなれるんだい？」

そこで陳勝は言いました。

「燕や雀のような小さな鳥は鴻や鵠のような大きな鳥の大志をどうしても知ることはできないのだろうか」

その意味はつまり、“目先のきかない者は、高遠な志を持った人の抱負を知るよしもないだろう”ということです。

後に陳勝は大澤郷の農民一揆を指導して、中国の歴史上第一番目の農民大一揆の領袖となったのです。

〈注記〉

史記：中国前漢の武帝の時代に司馬遷によって編纂された中国の歴史書である。正史の第一に数えられる。二十四史のひとつ。

(ウィキペディアより)

【前号まで】唐の貞元（紀元785～805）時代、淳于棼という人が酔い潰れ庭の大きな槐の木の下で眠っていると、槐安国の国王から迎えが来て、槐安国・国王の次女と結婚した。その後、国王から南柯郡の太守となることを命じられた淳は、友人二人と共に南柯郡の治政に当たった。善政を敷いて人々に慕われ、子供達もそれぞれ成長し、順風満帆の日々を送っていた淳だったが…讒言によって自分の故郷に戻る事になった。

淳は微かに目を覚まし、ぼんやりとあたりを見まわしました。目の前には、懐かしい景色がひろがっています。曾て可愛がっていた犬は気持ち良さそうに中庭でひなたぼっこして、二人の友人がのんびりと将棋を指しています。家人達は忙しく庭の掃除をして、槐は相変わらず青々とした葉を茂らせ、枝に群がった雀がチチチ・チチチと鳴いています。更に奥に進んで行くと、東壁の窓際には杯を並べた食卓が見え、卓上には飲み残した酒もまだ暖かく恰ももうすぐ誰かが戻って飲み続けるかのような雰囲気でした。

「あれ!？」

もっと吃驚したのは、庭に面した廊下の長椅子に横たわってうとうとしている人は自分自身ではありませんか！そうです、それは紛れもなく二十年前の自分なのです。髪の毛はまだ黒々とし、顔は皺一つなく若々しい青年だった頃の自分なのです。しかし青年を見下ろす自分は白髪頭となり顔も皺だらけになってしまっています。

そうです。そうなのです。自分はここに戻って来るまでの二十年間にいろいろな出来事がありました。栄耀栄華を極め、辛酸を嘗め尽くして戻ってきたのです。それらが淳の頭の中に鮮やかに刻ざみ込まれ容易に消せるものではありません。

淳は若い自分の姿を前に、昔の懐かしい事柄がまるで昨日経験したばかりのここのように一つ一つ胸

に湧き上がって来ると同時に、20年間の様々な経験の末、再び原点に立ち戻った事に深い感慨を覚えるのでした。

と、その時、

「淳！もう大丈夫か？」

と友人が淳に呼びかけている声が聞こえてきました。今度はすっかり目が覚め、頭もすっきりし椅子からさっと立ち上がりました。目はすっかり覚めましたが、淳はしばらくの間、夢と現実の間を漂っているような気分でした。その日淳は、確かに昼から友人と酒を酌み交わしながら詩や歌や音楽を楽しんでいました。その内眠くてたまらなくなり、いつの間にか椅子で寝てしまっていたのです。

今は太陽が西に傾きかけているところなのでさして長く寝てはいないように思えるのですが、寝ている間に不思議な夢を見ていたようです。しかし、その夢の、20年に亘る歳月の間に起った幸せな事や悲しかった事は心の深くに刻み込まれており、決して夢などではないと思えるのでした。

淳はそこに一緒にいた二人の友人にその不思議な夢を話しました。友人たちは淳の話に興味深く聞いていましたが、その一人が、

「本当に不思議な夢だな。その槐の木の洞^{うろ}には、何か怪しいものがあるのかもだ。探してみようか」

と言いながら槐の木に向かいました。槐の木の根元に大きな深い洞があります。淳は言いました。

「夢の中で馬車に乗って確かにこの洞を通り抜けたよ」

「掘ってみようか」

友人が下人にスコップを持ってこさせると、その穴を掘り始めました。

落ち葉を掻き分けて、地面を掘ってゆくと間もなく、びっくりさせられるような大きな蟻の巣が現れました。それは立派な蟻の巣です。いかにも蟻の大きな王国のようです。四方八方に伸びる道筋、赤い土で築かれた階段、その階段の上には高台が広がり、

その高台に見事な城が築かれて、何万匹もの蟻が忙しそうに行ったり来たりしています。そして、その城の真ん中で、白い羽と赤い頭の、体の大きな蟻が2匹、偉そうにのんびりと何かを食べています。

「ほう！ これは蟻の国王とお妃だろうか。だとしたら、この城は間違いなく槐安国国王の城です」

淳は興奮して言いました。

更に、槐の樹を良く見ると、南へ伸びた枝の1本の芯の部分が空洞になっていて、沢山の蟻が出入りしているのに気付きました。淳が近寄って中を覗いてみると、家々や、道路や城壁、河などいずれも淳が見慣れた懐かしい景色です。

「ほら、ここは私が管理した南柯郡に違いない。「柯」というのは枝という意味だ。この枝は南へ伸びてるじゃないか。間違いなく、ここが南柯郡だ！」

と淳が高ぶった声で言いました。

三人は用心深く更に土を除いて、くねくね曲がっている木の根に沿って東へ行くと雑草が生えているところに小さな尖った土の山が現れました。それを見ると、淳は顔が曇って来ました。

「これは妻のお墓ではないか？ 此処は木の根が長く伸びて曲がり景色のいい場所なので盤龍岡といい、私はそこに妻を埋葬したのだ」

友達と一緒に淳は南柯郡で狩猟をした場所、戦争をした場所、敵国の場所などを一つ一つ見つけることができました。南柯郡の記憶は、夢の中のできごとだとしてもどうしても真実のように懐かしく思い出されます。三人は結局、その蟻の巣を破壊しないように用心深く元のように土で被いました。

その夜の真夜中、雨がざあざあと滝のように降り注ぎました。淳はなかなか眠れなく、雨で流されるのではないかと一晩中心配しました。翌日早く起きると、すぐ見に行きましたが、蟻の巣は一部流されたものの蟻の遺体は全く見つかりませんでした。淳は南柯郡で出逢った天象を見る役人が「国に大きな災難がもうすぐ起こる。その災難で都を移さなければならぬ」と言っていた事を思い出し、恐らく雨の前に既に安全なところに引っ越したのではなかろうかと考えました。

「そうか、これがその災難だ！ 天象を観察する役人

の預言は的中したようだ。予言を聞いて都を別なところへ移したのならきっと大丈夫に違いない」

淳はそう思って安堵しました。そして、淳は槐の木の洞の前で長い間佇んだまま色々当時の思い出に浸るのでした。

「この洞の中には私の美しい妻、可愛い子供たちがいた。高い地位にあり権力もあった、富貴の生活をも過ごした。しかし、結局は無実の罪に陥られて、まるで暴風雨で一切を失ってしまったようだ。槐安国での20年間は、今の自分にとっては事実でもあり又まるで短い幻夢のようにも思える。今、自分は夢から現実の世界に戻ってきたが、この人生も同じではないか。この世でもすべての栄耀栄華は幻のようなものにすぎない。人生は素早く過ぎ去るものだ」

淳は考えれば考えるほど空しい気持ちになり、翌日、髪を剃って出家し山にこもりました。そして三年後、淳は人生の旅を終え、穏やかに世を去りました。その年はちょうど丁丑年になり、槐安国での手紙で父親と約束した年でした。 (終)

中国の笑い話 12 (「365夜笑話」より)

第32話：婉曲な表現

父親が子供に言った。

「立派な人物になるには、婉曲な物言いを身に付けなさい。断定的な話は慎みなさい」

子供は訊いた。

「どうしたら婉曲な物言い出来るの？」

丁度その時、近所の人が道具を幾つか借りに来たので、それを例に父親が言った。

「この場合は、『お入用な道具が全部、我が家にあるわけではありません。有るかもしれないし、無いかもしれません。我が家に有るものはお貸しします』と言えば良いのだ。婉曲な物言いは、これから類推すれば良いのだよ」

子供は、父親の話をしっかり記憶した。ある日、玄関に来客があって訊かれた。

「ご尊父はご在宅ですか？」

子供は、丁寧に答えた。

「居るかも知れませんし、居ないかも知れません」

通化とか集安という文字を見てすぐピンとくる人は、かなりの中国通である。私ももちろん大連に赴任するまで知らなかった。今回の都市巡りの表題は「通化市と集安」であるが、まず集安から書き進めていきたい。

大連滞在中のある日、社宅で中国の地図を見ると、吉林省・通化市の南、国際河川の鴨緑江に面している集安という街のあたりに「高句麗王城・王陵及貴族墓葬」と記してあるのが目に飛び込んできた。高句麗(BC37年～AD668年)といってもその昔、朝鮮半島で高句麗・百済・新羅の三国の時代があり、663年に日本(倭国)と百済連合軍が唐・新羅連合軍に白村江の戦いで敗れ、その後高句麗は唐によって滅亡したことくらいしか知らず、しかも高句麗は中国ではなく北朝鮮に当時の遺跡があるのだらうと思っていた。ところが中国にもあったのだ。

あらためて世界遺産の本を見ると、2004年に中国では「古代高句麗王国の首都と古墳群」として、北朝鮮では「高句麗古墳群」として仲良く文化遺産として登録されていることが分かった。高句麗は北朝鮮から中国の東北地方に版図を広げていたというのであるから、両国に遺跡があるわけである。

北朝鮮にある遺跡は簡単には行けそうもないので、ここではどうしても中国側の遺跡を見に行こうと思った。しかも壮麗なる好太王碑もその地にあることがわかった。

「好太王碑」はご記憶のある方も多いと思われるが、私は高等学校の歴史の教科書に写真入りで説明されていたのを思い出すのである。好太王(374年～412年)は高句麗19代の王(正式名：國岡上廣開土境平安好太王、で韓国



では広開土王と呼ばれるそう)であり、その碑には当時の日本(倭)に関する記述が彫りこまれているので有名であるのはご承知の通りである。私の頭の片隅に巨大な縦長の石碑の写真がはっきり残っていたので、今回半世紀にわたる思い出が形となって実現するのではと思うと胸がワクワクしたものだ。

中国人の友人に「集安という街にある高句麗の王城と好太王碑を是非見に行きたい」というと、友人は「寺西さんは物好きだね。そこは当時の王様や貴族の墳墓や記念碑があるだけで、あまり行く人はいないよ。でも行きたいのなら連れて行ってあげるよ」と言ってくれた。とはいえ簡単に行ける所ではなく、大連駅から寝台列車に乗って通化駅まで行き、そこからバスで2時間くらい掛けて集安まで行かねばならない。彼は親切にも汽車の切符の手配やホテルの予約などしてくれ、数日後大連駅から出発することになった。

2009年3月19日、私達は大連駅のホームに停まっている通化行きの寝台列車



埼玉県日高市・聖天院境内の慰霊塔脇に立つ「好太王」像

(K7385) に乗り込んだ。そして列車は16時21分滑るようにホームを離れて行った。寝台はセットしてあるがまだ外は明るいので窓際に向かい合うようにして座った。台の上にお湯の入ったポットが置いてあった。私は寝台列車が好きである。学生時代、故郷の広島から東京までたびたび“安芸”という寝台急行に乗って上京したものである。懐かしいやはり新幹線より旅情がある。

話が弾んだが寝る時間になったので横になった。列車は、瀋陽→四平→梅河口→の順で走り、翌朝の6時30分頃に通化駅に滑り込んだ。日本のようにダイヤ通りぴったりとはいかないが、10分近く遅れたくらいで到着した。先ずバスターミナルに向かい、集安行のバスの時間を確認した後、腹ごしらえをすることにした。友人は中国人なので万事スムーズに事が運び、私は言われる通りについていくだけでとても気楽であった。

ここで中国の東北地方から朝鮮半島にかけてもう少し歴史を振り返ってみたい。

この地方は日本に近いただけあって幾つかの国は日本といろいろな形で交流があり、また争いもあった。前出の三国の中では百済との関係が深かったと言えようが、高句麗も長い歴史の中で多くの接触があり、また国が滅んだ時その遺民がかなり日本に逃れて来ているなど、知れば知るほどこの両国は身近に感じられる。

高句麗という国は歴史書には中国東北部から朝鮮北部に居住していた貊族(はくぞく)というツングース系民族が興した国とある。百済も同じツングース系民族とあるが、新羅は両国とは違う民族のようだ。三国はお互いに手を結んだかと思うといつの間にか対立しており、これに中国が陰に陽に絡んでいるので三角関係はとても複雑で説明しようとしても私の手に負えない。

高句麗はこの地を700年余り支配して668年に滅亡したのだが、その地にやがて渤海(698年～936年)という国が興り、228年間この地に栄えた。歴史の流れを見ると、例えば中国で例を挙げると隋の次は唐になったわけであるが、隋を建国した文帝の皇后と唐を建国した高祖(李淵)の父(李昞)の夫人は姉妹であり、言ってみれば親戚関係でつながっていると言えよう。

渤海はといえば、実は高句麗は滅亡したがその

遺民である「大祚栄」が同じツングース系の“靺鞨”と共に興した国なのである。つまり高句麗は唐に滅ぼされたとはいえ、約千年続いたと見ることもできるのではなからうか。全く違う民族が征服する例もいくつもあるが、底流でつながっている国家も多い。

渤海は日本(倭)と縁の深い国である。遣唐使ならぬ「遣渤海使」は15回を数え、両国は34回も使者が行き来した。当初は新羅を牽制するための軍事的な性格を帯びていたらしいが、後半は文化、経済交流に変わっていったようである。私はこのような交流に加え、大連に赴任していたからか「渤海」という名に親しみを感している。渤海は海の名称でもあり、遼東半島と山東半島の懐に抱かれている海であるが、実は「渤海国」はこの海に面していない。この国の名称は、前述の大祚栄が渤海沿岸にあった「渤海郡王」に封ぜられたことにより付いたものだそうである。渤海について敷衍すれば、近年その歴史的地位が韓国・北朝鮮からすれば〈朝鮮民族の王朝である〉とし、中国からすれば〈中国の少数民族による地方政権である〉とみて両国間で歴史論争が発生しているようだ。

さて集安行のバスに乗り込み約2時間、車窓からの風景を楽しんでいるうちに集安市街に到着した。集安は「市」ではあるが県級市であり、地級市の通化市より一ランク下である。人口も20～30万人で通化市はその十倍はいる。同じ「市」でも集安市は通化市の中の一行政区に過ぎない。

しかし、これから述べるように2千年前は高句麗の都が置かれた地であり、この地に住む人の気位は通化市より上かもしれない。こじんまりした街であるが、なぜ高句麗がこのあたりに都を置いたのか、地政学的にどのような利点があるのか分からない。最初はここから西に100キロメートルくらい離れた山岳地帯の「五女山山城」(遼寧省)に都を置いた。約40年後に集安市内に遷都し、209年にさらに同じ集安市ではあるが近郊の丸都山城に遷都した。それから427年に北朝鮮の平壤に遷都した。

私たちはタクシーに乗ってまず丸都山城に向かった。タクシーは山あいの少し開けたところに我々を降ろした。そばには鴨緑江の支流である小さな川が流れていた。川の土手から眺めると前方

にいくつかの小さな石のピラミッドが散在している。盛り土した墓もあった。

エジプトのピラミッドとは比べるべくもないが日本にはもちろん見られない光景である。一つがおよそ5メートル前後の高さと思われた。中国語でピラミッドは形が「金」という字に似ていることより「金字塔」というが、確かに金の字に似ている。近くに行くと見ると意外に大きいのに驚いた。一つ一つの石も大きいのだが、どこからこれだけの石を切り出してきたのだろうかと思った。この場所のお墓はすべて運転手の話だと高句麗貴族の墓だそうで、歴代の王の墓は少し離れた「禹山墓区」にあるという。

3世紀から5世紀にかけて君臨した王の墓が14基あるそうで、平壤に遷都してからの墓は平壤のどこかにあるであろう。古に思いを巡らせながら少し散策した後、待たせてあったタクシーに乗りいよいよ好太王碑に向かった。この碑も禹山墓区の一角にあった。

先ほどの丸都山城もそうであったが、この場所も友人が言っていたように世界遺産であるのに観光客は一人も見当たらない。それでも入り口で30元払って中に入る。中国は雇用対策もあるのか、ちょっとした場所でも入場料を取られる。3月20日は春分の日で日本は祝日であるが当時中国はどんな扱いだったか思い出せない。しかし静かにゆったりと見られるのはありがたい。中国の観光地はどこに行っても人出が多く、しかも騒々しいからだ。

好太王碑は威厳を持って我々を迎えてくれた。その前に立った時、碑の大きさに驚きかつ1600

年もの歳月が醸し出したのであろう圧倒的な迫力を感じずにはいられなかった。高等学校の教科書の写真と違うのは、高さ6.3メートルの石碑が瓦屋根がのっかり周囲をガラス張りにした建物の中にあつたことだ。

この碑は好太王が崩御した2年後、第20代の

王となった長寿王が父の功績を称えて414年に建立したものである。高句麗は好太王の時最盛期を迎えているのだ。惜しまれるのは38歳という若さで亡くなったことだ。ちなみに昨年7月からその偉大な王を称えた「広開土太王」と題するドラマがBS4で始まった。2011年に韓国で放映されたものである。脚色されているとはいえ、比較的史実に沿った内容と思われ面白い。

碑文は1802文字というが少なくとも50年前までは風雨にさらされていたわけであり、そのため文字の一部が欠落していたり読みづらくなっていた。

もっと早くからこの碑の重要性に気づき、保全措置がとられていたらと残念に思うが、いくつかの国や民族が興亡を繰り返していた地だけに仕方のないことかもしれない。

それから禹山地区の北東端に「將軍墳」に向かった。集安で一番有名な金字塔である。ここでも入場料を30元支払う。この墳墓は小高い丘の上であり、7段ある石のピラミッドは他を圧して聳え立つ感じである。一つ一つの積み上げられた石も大きい。

最上段は平らになっていて尖った三角形ではない。堂々たる姿から「將軍墳」と呼ばれるが、四角形の底辺の一边が約32メートル、高さは12.4メートルもある。自由によじ登っていいので上がる



ガラス張りの建物に安置されている好太王碑



將軍墳

と、頂上からの眺望はすばらしい。ただこれだけ有名な墳墓であるが、誰の墓なのか特定されていない。調査の結果は好太王かその次の長寿王の墓と推定されているそうであるが、私は好太王の墓としたい。

このようにいくつもの遺跡を巡っていると集安という街は古墳群の中に取り囲まれているのがわかる。これからも高句麗王朝を守れという使命を与えられた街に見えた。集安については、このあたりで終わり通化市に移りたいが、その前に高句麗に関して最後に一つ書き加えたい。以下は次号に譲りたい。

(続く)

【‘わんりい’の原稿を募集しています】

‘わんりい’は、2月と8月を除く毎月発行の当会の会報です。主として、会員と会の関係者の皆さんの原稿でまとめられています。海外旅行で体験された楽しい話、アジア各地の情報やアジア各地で見聞した面白い話などを気軽にお寄せ下さい。

又‘わんりい’の活動についてのご希望やご意見及び‘わんりい’に掲載の記事などについても、簡単なご感想をお寄せいただければと存じます。

日中文化交流市民サークル ‘わんりい’

智子の雑記帳 99

2014年、明るい年に

年齢を重ねるほど、1年が早く過ぎるよう感じるのを、「ジャンの法則」というらしい。60歳の人にとって1年は人生の60分の1であり、6歳の子どものとって1年は人生の6分の1であること、また子どものほうが、日々の生活が新鮮な驚きであふれているため、1年を長く感じるようだ。

というわけで、1年間が人生の35分の1である私は、2013年もなかなかスピードで過ぎた。とはいえ、自分自身のことでは、この年は異動したため、4月から慣れない業務と環境でバタバタとし、仕事仲間も一新され、覚えることもたくさんあり、例年よりは「新鮮な驚き」であふれていたのだろう、いつもよりはゆっくり感じた1年でもあった。

2013年は、東京オリンピックが決定した。オリンピック決定と同時に、福島第一原発の汚染水問題もクローズアップ。それでも、11月には使用済み燃料プールから、燃料棒の取り出しが始まり、いろいろな意見はあると思うが、現場の方々の努力と忍耐で、ここまで来たのだと、ちょっと明るい気持ちになった。

2013年の漢字は「輪」、流行語大賞は「今で

しょ!」「お・も・て・な・し」「じえじえ」「倍返し」。なんとなく、みんなが前を向き始めた1年だったのかもしれない。

私個人でいえば、これまで仕事のキャリアや子どもなど、自分にないものばかりに目を向けて、焦ったり落ち込むことも多かったが、今年は、そういうことが、ゼロではないが少なくなった。世間的な「幸せの基準」に自分を持っていくのではなく、自分自身がそれなりに楽しく暮らせれば、それでいいじゃないかと、思えるようになった。

「人は将来のことを考えると、必ず不安になって、不幸な気持ちになる」とテレビで聞いて納得し、将来のことを考えるのをやめた。将来は、今の積み重ねだから、今を大切に生きていくことだけを考えればいい。

気持ちが前向きになったせいか、ちょっとしたことで許せなくなっていた友人に、また会いたくなって、会ったら普通に楽しめた。疎遠になっていた両親にも、数年ぶりに会った。

2014年、日本の課題は多く残るが、一人ひとりが、前を向いて、明るい年にしていければいいな、と思う。

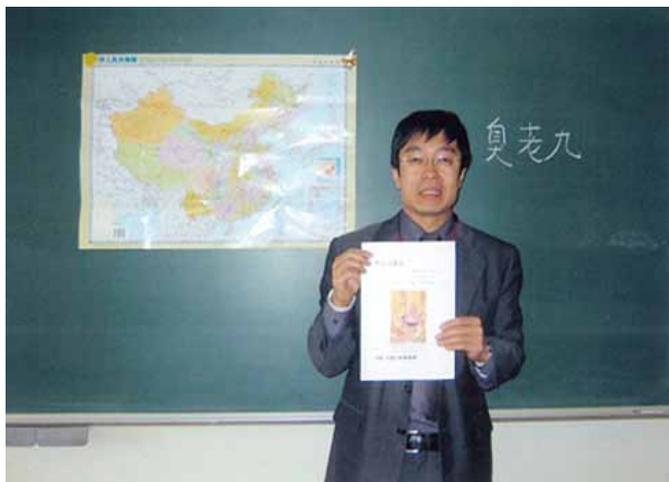
(真中智子)

もう真冬にはいりましたが、今年は雪が比較的少ないし、故郷の山西省に比べ暖かいし、予想より過ごしやすいです。

私は1月27日、六戸町の小中学校教頭会研修会で「中国の教育事情」と題した講演を行いました。

12月初めに教頭会会長から依頼を受け、それ以来図書館やインターネットで資料を調べたり、中国の教育法も初めて詳しく読みました。それから講演用の参考資料を作成しました。準備万端では有りませんが、当日役場会議室で講演を行いました。最初に中国地図を使い、簡単に中国の国土、人口、民族などの概況を説明しました。それから実例を通して中国の歴史や現状などについて話しました。最後に「中国の学校の新学期はいつですか?」、「中国旅行ならばどこが一番いいですか?」など様々な質問がありました。その中の一つの質問に私は今でもまだ正しく答える事ができません。

講演の時、文化大革命の教育事情に少し触れました。当時は、教育は重視されなく、先生のことを「臭老九」とも言うことを説明しました。「臭老九^{注)}」とはつまり9番目の鼻つまみ者、学校の先生などの知識人に対して用いられた蔑称でした。「臭老九」の3文字を黒板に書きました。それで「9番までの順を教えてください」との質問がありました。残念ながら私はあやふやな回答でした。町民の皆さん、どなたかもし分かる方がいましたら教えてくださいませんか。



「臭老九^{しゅうろうきゅう}」の3文字を黒板に書きました。

その後、教頭会の会長から感謝状を頂きました。「ご講演は広く教頭としての見識はもちろん教育の原点とも言える児童側にたった教師の姿勢をご指導いただき、日々試行錯誤している私達に今後の指導の方向を示唆していただきました。」など丁寧かつ謙遜なお言葉でした。この正しい礼儀の面を私達は見習うべきです。

中国は近年、経済が急速に発展し、多くの人材が必要になり、国民の間では子供の教育は最大の関心事で、教育ブームになっています。都市部の家庭では一人っ子が殆どで、大抵の親達は教育パパ、教育ママになり、子供のことを「小皇帝」というほどです。親達は子供のためになることならば、どんな投資でも惜しまないのです。学校以外にも様々な塾にも行かせています。小・中学生の海外留学も珍しくないのです。将来安定した生活を得させるといような考えが少なくありません。

いま中国の教育は「素質教育」(ゆとり教育)にするようにと呼びかけて教育改革に力を入れています。日本の教育事情についてまだよく分かりませんが、講座のために七百中学校へ行った時、校舎が綺麗だし、先生が優しいし、学生が幸せそうとの印象を受けました。教頭会の講演で皆さんとの交流ができて、いい経験になり勉強になりました。広報を借りて感謝の意を表します。

注) 臭老九：元の時代に同じ漢族の中にも、身分差があったのです。公式の記録ではありませんが、当時のエッセイによれば、漢族は十等に分けられ、その序列は次の通りであったとされています。

注)

臭老九：元の時代に同じ漢族の中にも、身分差があったのです。公式の記録ではありませんが、当時のエッセイによれば、漢族は十等に分けられ、その序列は次の通りであったとされています。

1官 2吏 3僧 4道 5医 6工 7匠 8娼 9儒
10丐(乞食)

儒者は娼の下、乞食の上という哀れな身分でした。

「鄧さん頑張る・日本探検記」は、2004年から2006年の2年間、青森県六戸町の国際交流員として国際友好活動にかかわった、中国山西省太原市に住む一中国人・鄧仁有さんの日本体験です。文章は原文のままです。

町田市民大学HATSの2013年度後期国際学は「環日本海をつなぐ～ヒト・モノ・コト」のタイトルで全9回に亘ってのプログラムで、その目的は地中海に比べ3分の1ほどの日本海に焦点をあて、この地域の問題を掘り下げると同時に豊かな未来を考えようということにあり、町田生涯学習センター(まちだ中央公民館)7Fホールで学習(定員120名)を進めました。その内の1回が、参加型学習という事で、町田に住む3名の中国の方/殷秋瑞(京劇俳優)さん・戴沢宇(国土舘大学留学生)さん・呉麗華(中国人女性)さんが、日本での日ごろの生活振りをスピーチしました。それぞれの持ち味あるスピーチは大変興味深く、日本での頑張りに、私を含め参加者一同強い共感を覚えた事でした。一番若いスピーカーの戴沢宇さんの、目的とするアルバイトに付くまでの健闘振りを、'わんりい'の皆様にも紹介したいと思い原稿を頂きました。(田井)



みなさん、こんにちは。私は戴沢宇と申します。中国の深圳しんぜんから参りました。今、国土舘大学の二年生です。去年のこの時期にも、町田国際交流センターが開催の「留学生トークプラザ」で日本に来て

から2か月の間に日本で感じたことについて発表しました。知らず知らずのうちに、私が日本に来てからもう一年ほど経ちました。これから、わたしが日本にいた一年間にあったことについて発表させていただきます。

日本に来たばかりの私にとって、二つ大事な事がありました。一番目はどうやって日本語を早くうまくするかということ、そして、二番目はアルバイトを探すことです。日本に来て日本語が上手になることはもちろん大事ですが、アルバイトを探すことがなぜ大事だったかという、それは、日本の物価が高いですから、もし、自分が自分の生活費を稼げれば、両親の負担が軽くなると思っています。それに、アルバイトをすれば、日本の社会にもっと近づけるし、日本語を上手にすることもできます。いろいろなことを勉強することができます。

私は中国で高校生の時、母に半分強制されてアルバイトを始めました。私の実家の近くにたくさんの外国人が住んでいますから、外国のレストランも一杯あります。ですから、中国にいた時、家の近くのいろいろなレストランでアルバイトをしたことがあります。たとえば、フランスレストランや日本の鉄板焼きレストランやイタリアレストランなどです。ほとんどのお客

様は外国人ですから、本当に外国語を勉強しました。中国の大学に入って、中国のスターバックスで8ヶ月アルバイトをしました。日本に来る前に、ワイン屋でアルバイトしたこともあります。今思い返せば、いろいろ助かりました。

実は中国で日本の大学生のように、アルバイトをしている大学生は少ないです。中国の店はほとんど正社員なのです。あまりアルバイトを募集しません。でも、私の家のあの辺は特別です。私は中国でアルバイトを探した時は、一つ一つの店に入って、直接「いま募集していますか」と店の人に訊いて、もし、店長がいれば、すぐ面接を受けることができました。

私は日本に行ったら、日本のスターバックスでアルバイトをしたいと、日本に来る前に、私はもう決めていました。中国でいろいろな店でアルバイトをしましたが、この中で、私が一番好きなのはスターバックスです。中国のスターバックスでいっぱい友たちができ、たし、コーヒーの知識も勉強できるし、楽しかったです。ですから、日本に来て、スターバックスでアルバイトをするのは私の目標でした。

しかし、日本のスターバックスは外国人を募集しないと先輩から聞きました。その時、ちょっとショックでした。でも、「やってみないと、後悔するよ」と自分に言い聞かせました。日本のスターバックスでアルバイトをするのは難しいのは知っていますので、スターバックスに入りたい気持ちを表すために、スターバックスの採用担当に手紙を書きました。

これから、私は日本に来てまだ4か月で、大学1年生だったときに日本語で書いた手紙を読みます。



採用御担当殿

お忙しいところ、この手紙を読んでいただき誠にありがとうございます。

私はタイタクウと申します。中国のシンセンから参りました。今、国士館大学の一年生です。

中国にいる時、シンセンのスターバックスコーヒー海上世界店で働いた経験があります。ですから、基本的なドリンクを作ることができます。それに、スターバックスのボランティアの活動には何度も参加したので、各店の仲間と一緒に仕事をして知り合いになったり、人々へ暖かい気持ちを届けたりするのはすごく楽しかったです。スターバックスのボランティアの活動が好きです。人々へ暖かい気持ちを届けるだけでなく、各店の仲間も私の仲間ということを感じました。スターバックスは大家族のようです。

スターバックスはコーヒー一杯で人と人の関係を親しくさせることができます。よく来るお客様の好きな飲み物を覚えていて、注文を受ける時、お客様の好きな飲み物を言って、私の暖かい気持ちを伝えたことがあります。これからもこのようにしたいと思います。お客様のために、心地よい第三空間を作りたいと思います。

もっと、コーヒーについてのことを勉強したり、日本のスターバックスのことも知りたいです。ですから、もう一度スターバックスでアルバイトしたいです。私は自分自身にいろいろな足りないものがあると思いますが、もし採用していただければ、一生懸命頑張ります。どうぞよろしく願いいたします。

国士館大学21世紀アジア学部
タイ タクウ



この手紙を持って、中国でアルバイトを探すように、鶴川のスターバックスに入りました。直接スターバックスのスタッフに、「いま、募集していますか。店長さんがいらっしゃいますか。もし、いらっしゃれば、この手紙を渡していただだけませんか」と訊きました。

でも、すぐことわられました。「もし、応募したければ、先に電話をかけてください、予約があれば、面接のとき、この手紙を受け取ります」。友だちから聞きましたが、このようなやり方は日本では失礼かもしれません。中国と全然違います。まず、電話を掛けるのは必要です。ですから、私は家に帰ってすぐ電話をしました。でも、募集していないと言われました。

日本のスターバックスのホームページで長津田のスターバックスに応募しました。メールから返事があって、面接の時間が出ました。これは私の日本ではじめての面接です。ちゃんと準備しないと、絶対無理です。ですから、この面接に合格するために、面接に出るかもしれない問題を書いて、答えを準備して暗記しました。加えて、日本のスターバックスのドリンクの値段も全部暗記しました。でも、やっぱり日本語が上手ではありませんから、面接のとき、答えがうまくできませんでした。

それでも、まだ、スターバックスのことが諦められません。二回目のスターバックスの面接がすぐ来ました。二回目の面接は一回目の面接よりうまくできたと思っていますが、やはり落ちてしまいました。いまでも落ちた理由がわかりません。でも、あの時、本当に先輩が言った通り、スターバックスが外国人を募集しないのでしたら日本に来たばかりの私にとってスターバックスでアルバイトをするのは難しいかとか考えました。そしてやっぱり、目標が高すぎだと思っていました。

その頃、日本と一緒に来た友たちはほとんどアルバイトを見つけました。ですから、私はちょっと焦りました。「やめましょう、ほかのアルバイトを探します」と自分が自分に何度も言いました。そして、ほかのアルバイトを探し始めました。しかし、ほかのアルバイトを探すのは想像以上に難しいです。何十回もアルバイトを募集している店に電話をかけました。

「私はタイタクウと申します。いま、募集していますか」

「いまは、募集していませんよ」

すぐ断られました。たぶん、私の名前を聞いて、すぐ、中国人と分かりますから。この間、私はすごく落ち込んでいました。中国ならば、見つけることができます。日本に来て、私は何にもできません。これは今年の1月のことでした。毎晩、家族にビデオ電話をし、話すうちに、涙が出ました。今でも、あの時の気持ちをよく覚えています。あの時、家族は私を励ましました。

「焦らないで、お前なら、絶対探すことができるよ。時間の問題ですよ」

「探すことができなければ、日本での生活費をあげます、大丈夫です」

と私を慰めてくれました。それに、昨年の「留学生トークプラザ」のスピーチの会場で知りあった田井さんが、いろいろな活動や日本人との交流会に私を誘ってくださいました。本当にあの時の私はいろいろ助けられました。この機会を借りて田井さんにお礼を申し上げます。田井さん、本当にありがとうございます。

ある日、もう一度日本のスターバックスのホームページを見ていたら、私が留学している国士舘大学に近い、新百合ヶ丘のスターバックスがアルバイトを募集していました。

やっぱり諦めたくないです。中国でことわざがあります。「事不過三」〈三度目の正直〉の意味です。最後の面接を覚悟して準備しました。面接の日、新百合ヶ丘のスターバックスに行ったとき、ここのスターバックスで使っているコーヒー機械は私が中国のスターバックスで使ったコーヒー機械と同じということが分かりました。新百合ヶ丘のスターバックスは私とすごく縁があると思いました。必ず合格できます。面接も非常にうまくできました。それに、店長さんは中国の文化が大好きです。ですから、今回いけそうと思っていました。

面接の発表の日、私はずっと携帯を持っていました。メールがやっと来ました。どきどきして、メールを開きました。私は今でもこのメールを保存しています。この、「選考の結果、ぜひ入社いただきたいと考えております」を見て、私は信じられなかったです。本当にスターバックスに入れますか、あの時、このメールを、何十回も読みました。若しかして読み間違っていないかと不安だったからです。

日本に来て、私も、私の友人たちも、両親の期待に応えられるように、私たち自身の目標を達成することができるように、勉強もアルバイトも一生懸命頑張っています。いつも、留学生に優しくして下さる皆さんに感謝します。本当にありがとうございました。

私の発表は以上です。ご清聴ありがとうございます。

明けましておめでとうございます

当地の冬は昨年に続いて寒い日が続いております。夏は例年より涼しくてクーラーの出番が少なかったですが、秋以降はヒーターの出番が増えて今はフル稼働しています。秋以降の降雨も少なかったため、この分ですと今年も花の開花が遅れそうです。

日本も寒波に見舞われていると聞き及んでおります。どうぞご健康にお気を付けて良いお年をお迎え下さい。皆様の益々のご活躍をギャロンの地よりお祈り申し上げます。

中国四姑娘山自然保護区管理局特別顧問 大川健三



第16回町田発国際ボランティア祭(2013年12月8日、於：町田市民フォーラム)を見学しました。私にとって、一番注目のイベントは認定NPO法人の日本雲南聯誼協会のプレゼンテーションでした。

日本雲南聯誼協会の目的は中国南部の雲南省の貧しい山村に小学校を50校建設すること。設立して10周年ですが、すでに23校設立したそうです。興味を持ったのは建設費の負担は50%だということです。残り半分の費用は説得・交渉して昆明市などの地方政府に出資させるそうです。さらに協会は、生徒が進級するに従って学費を援助する「25の小さな夢基金(一種の里親制度)」のパートナーを募ってフォローしています。このシステムで大学に進学している学生も誕生し始めたとのこと。

「雲南省」といえば少数民族が多いことで有名です。現在はベトナム、ミャンマー、ラオスと国境を接していますが、古くは「南蛮」といわれ、前漢の高祖(劉邦)のひ孫の武帝の時代に南越(現ベトナム)を滅ぼして以来この地方は厳しい環境に置かれているというぐらいの知識しかありませんでした。

いろいろ問題を抱えている地方政府を説得して校舎の建設までもっていくことは努力と忍耐が必要なことだと容易に想像できます。プライドの高い昨今の中国の中央政府は、こうした日本人の貢献を知っているのでしょうか。いささか疑問です。

日中両国の政府はトップ会談が出来ないことを理由に上げ、非難し合っています。両国の調査によれば嫌中・嫌日のスコアが90%を超えるという情けない状況です。「日中交流」とか「日中友好」とかいうコトバが空しくなりつつあります。私はこの協会の理事長である初鹿野恵蘭さんを初めとするメンバーの活動に爽快感を感じ、その背後に「徳」があるのではないかとさえ思いました。つぎにまた王敏さんの著書から借用します。

× × × × × × × ×

中国では「徳=仁・義・礼・智・信」で国を治めることを最善とする。尚武ではなく「尚文=文治」が尊ばれた。「以人為本(人を以って本となす：管子)」。人物評価は

「徳」にプラス「能力」で行われる。自然の恵みと恐怖を「天意」という。天意を人格化して上帝ともいうがその子を「天子」という。天意を受けて政治を行うのが天子である。後世になると天意は「民衆の世論」と代り、民衆の意を受けて国を治めるのが天子(代行者)ということになる。「国を愛するが故に起こした暴動は、時の皇帝や政権に逆らってもかまわない」という。革命とは「天命を革(あらた)める」の意。

× × × × × × × ×

「徳」といえば儒教。儒教といえば論語。論語といえば孔子です。聖徳太子の時代、遣隋・遣唐使によって移入され、江戸時代には朱子学として大成しました。ある部分には日本人のDNAになっているとも言えると思います。

古い話で恐縮ですが。読売新聞の論説副委員長を務めておられた関憲三郎氏の話です。彼は文化大革命時に特派員として北京に駐在しており、奥様の運転で北京を走り回って「壁新聞」を読み解きスクープを連発した中国通でした。偶然、周恩来首相がなくなった日(1976年1月8日)にご一緒していました。私は「毛沢東の革命思想」はどう

いうものかを尋ねました。

毛氏曰く、

「中国には2500年に及ぶ儒教の教えがある。自分(毛)の一生が100年あってもその教えを消し去ることはできない」「革命を継続するには思想上に対立概念を持ち込み、互いに争い合う必要がある」ということでした。

この言葉は後に起こった「天安門事件」を初め、今日まで続く幾多の抗争からも読み取ることができます。しかし私たち一般市民は自分たちでできることをやればいい。日本雲南聯誼協会の支援活動も大学の留学生、観光客の誘致活動も「真の、そして現在の日本」を理解してもらうためには、ささやかであってもいいと思います。

* NPO法人日本雲南聯誼協会の活動に関心をお持ちの方は下記のURLで検索してみても如何でしょうか。<http://www.jyfa.org/>



アッパアにチャレンジ

赤岡健一郎 (日本スリランカ武道協会
日本スリランカ文化交流協会)

12月8日に開催された2013年・夢広場の「調理室で楽しむ特別イベント・世界の料理にチャレンジしよう! VOL. I」でアッパア作りの体験教室を行いました。アッパアはお椀型のクレープの様な食べ物で、周りはサクサク、底部はモチモチ・フワフワした食感でココナツの香りが高いです。

アッパアの作り方を簡単に説明しましょう。米粉、ココナツミルクと前発酵させたイーストを混ぜて生地を作ります。生地を少し寝かせ、油をひいたアッパア専用のお椀型のフライパンに流し込み、一回しさせて蓋をすれば出来上がりという、いわばお椀型をしたスナックです。

スリランカでは、よく朝晩の食事時にご飯の代わりにカレーやポルサンボールをつけたり、焼く時に卵を落とし入れたり溶き卵を回しかけて食べます。食事時だけでなく軽いスナックとして食べられることもあります。町を歩いているとアッパアを山積みにして売っている店をよく見かけます。ポルサンボールはココナツフレーク、チリ、ライム、玉ねぎ、砕いたモルジブフィッシュ(鯉節)や塩などを混ぜ合わせたフリカケの様なものです。

昨年までとは違って今回は室内で夢広場が開催されるので、スリランカの食べ物をブースで調理して販売する事は出来ません。スリランカの食べ物を紹介出来る唯一のチャンスは調理室で行われるイベントのみです。スリランカ日本武道協会会長のシリーさんと相談して、見た目が良くて簡単そうという理由だけで、アッパアを紹介する事に決めましたが、これが大きな間違いでした。

先ずは、アッパア専用フライパンを捜す事から始めました。多くのスリランカ人に聞いてみましたが、持っている人が見つかりません。しかもよく聞いてみると、ほとんどのスリランカ人が本国に居た時も自分の家でアッパアを焼いているのを見た事が無い、あれは店で買う物だと言うではありませんか。不味いなと思いつつ、仕方がないのでスリランカから取り寄せる事になりました。10月の中旬に3個のフライパンが到着しましたが、今度はレシピが判りません。

漸くインターネットで数種類のレシピを探し出して調理練習開始です。ところがレシピ通りに調理してもお椀型になりません。10月末にシリーさんの家でカレーパーティーがありました。その時にカレーを調理してくれたスリランカ人にも「上手く焼くコツ」を聞いてみましたが、この人もアッパアを焼いた経験がありませんでした。試行錯誤で皆で挑戦した結果のできばえは、最もできばえがよいものでも破れたクレープに目玉焼きが乗ったようなものにしか見えません。

夢広場まで残り約1カ月半しかありません。それからは1週間に2～3回は材料の分量を変え、火加減を調整しての試行錯誤の連続です。この頃はココナツの香りにも食傷気味になっていました。夢広場の1週間前になって漸く何とかお椀型になってきました(写真1)。でも、まだ周りはサクサクで底部はモチモチ・フワフワという食感がありません。残りの1週間は、ほぼ毎日のように焼く練習です。トータルで何枚のアッパアを焼いたのか判りません。

さて、夢広場当日になりました。自分達の販売用のブースをセットし午前中はのんびり出来ましたが、12時を過ぎるとブースは友人に任せて、まだ調理室の午前中のプログラム・ラグ麺のワークショップが終わっていない調理室の片隅で仕込み開始です。家では小さなボウルで生地を作っていましたが、ここでは6倍もの材料を使って一





2

番大きなボウルで生地を作りました(写真2)。午後1時少し前になるとアップピア作りにチャレンジする十数名の人達が集まり、いよいよ本番スタートです。

まずはレシピを配って座学から始め、次に僕がお手本を見せ、その後ゲストの方々に焼いてもらいます。最初の1枚は全員がお椀型にならずに失敗。2枚目、3枚目と焼いていくうちに段々とお椀型に近づいてきます。3枚目辺りから生地をフライパンに流し込み、一回しさせて生地を広げる要領が判ってきて成功率が高くなってきました。ここで卵を落とし入れて試食用のアップピアを焼くことにしました(写真3)。

最終的にはほぼ全員が何とかお椀型のアップピアを焼くことが出来、自作のアップピアとアジア草の根支援交友会の高橋さんの入れた香り高いセイロン紅茶でスリランカ風のティータイムを楽しんで頂きました。教室が終わった後も、余った生地を使



3



4

ってシリーさんと一緒に数えきれない程のアップピアを焼き続けました。スリランカ人のシリーさんもこの日がアップピアを焼くのが初めてでした。

最後に、この日僕が一番上手く焼けたアップピアをご覧にいれましょう。溶き卵を回してあり、食感も完璧です。練習の成果ですね(写真4)。

◇わんりいの催し

〈第16回町田発国際ボランティア祭・2013夢広場〉

2013年12月8日(日) 10:00～16:00 於: 町田市民フォーラム・3F 全フロアー

町田市周辺の国際支援と友好団体を実行委員とする「町田発国際ボランティア祭・夢広場」が今年初めて、町田市民フォーラム3Fフロアーを使った屋内で開催された。今年16回目の開催になるが、これまでには、幸いけが人は出なかったものの突然の強風でテントが倒れたり、台風直撃の予報で日延べを余儀なくされたり、天気回復が遅れて雨の中で開会宣言をしたりなど、天気に泣かされることもままあった。屋内開催はこの点では心配ない。

問題は、いかに祭の知名度を高めるかというPRに課題がありそうで、夢広場の世話人が運営委員会を構成し年初めから計画を練り、話し合いを続けてきた。

そのような努力の積み重ねで、今年は、ホール、視聴覚室、調理室、和室それぞれに合わせたプログラムが企画され、これまでの夢広場と趣を異にして、それぞれのイベント会場には、「知りたい」「体験したい」等のはっきりした目的意識を持



舞台の司会を務めた国土館大学2年生の劉嘉琦さん(左)と日本大学1年生の吉田君



町田市民フォーラム 3F はまるで物産展のようだ

って参加された方が多数いらっちゃった。屋内での初めての催しで、手さぐりしながらの開催で、反省事項は多々あるものの、「夢広場」の本来の意義に合った祭としての手応えを感じられた。

しかし、一番の課題は、運営委員会で当初から懸念されたPRの問題で、特に、これまでの祭会場・ぼっぼ町田イベント広場では仮設舞台の出し物が文字通りアトラクションとなって人を呼んだが、今回は逆に、いかにして多くの人をホールに呼び込むか、PRと共に出し物の魅力に一工夫必要のようだ。

さて、'わんりい' は、調理室を使った午前・午後の調理ワークショップで参加。午前は夢広場実行委員会主催の、謂わば請負事業で、キルギスの「ラグ麺体験講座」であり、午後は、近年'わんりい'の売りとして定着しつつある「手作り月餅体験講座」である。

ラグ麺は一口に言えば手延べのうどんで、日本人は手延べそうめんイメージできるが、果たして自分でも本当に麺棒を使わずに麺をのばせるのかという興味が人を呼んだようで、男性の参加も多かった。又、昼食代りにと召し上がりにいらっしゃる方もあり、用意の30食分は綺麗に平らげて終了した。

短時間での体験講座なので、捏ねた麺種を寝かせる時間が必要なため、あらかじめ講師のキルギス人留学生・ケレザさんが捏ねておいた麺種をそれぞれ自分の分け前分を取り分けて、ケレザさんの手つきを見よう見まねでのばし、茹で上がりにキルギス風のトマト風味のソースを掛けて召し上がって頂いた。ケレザさんがのばした麺のように均一の太さにはならなかったようだが、召し上がった皆さんの「ラグ麺」の美味しさ度評価は高かった。

午後のワークショップ「手作り月餅」も、中華の高級焼き菓子「月餅」が自分で作れるとあってか、事前



ケレザさんの手元を見つめる参加者の皆さん



ケレザさんのルームメイトの留学生/フランス系アルジェリア人・パミラさん(左)とインドネシア人ディナさん(右)も参加。まだ、来日間もないそうだが、皆と楽しそうに交流した。



次々に成型されて、二度焼きを待つ月餅

申し込みの参加者も多く、小豆餡・ナッツ餡・カボチャ餡の三種類の月餅を成型して焼き持ち帰って貰った。また、「手作り月餅体験講座」の講師・有為楠君代女士にお願いして、夢広場視聴覚室講演会参加者の皆さんに焼き立ての手作り月餅を試食頂こうというので、調理室は一時月餅工房のような甘い香りが溢れた。

スリランカでの生活も残り少なくなってきた。12月3日に帰国することになり、早めに航空券の手配は済ませた。それまでに約1カ月はある。残りの日々をあわただしく動き回りたくないのので、早めに帰国準備を始めた。

まずしなければならないこととして、荷物の整理であるが、スリランカ・リサーチに必要な書籍や雑誌類がたくさんある。雑誌等は多少処分したが、書籍はどうするか。トランクに入れて持ち帰るのは重量オーバーで恐らく超過金が必要になると思われるので、郵便で送ることにした。ケラニヤ大学の近くの郵便局に行き、日本へ段ボール箱に詰めた本を送れるかどうか尋ねたところ、大丈夫とのことなので郵便で送ることにした。

翌日段ボールを探した上で、本を大きなバッグに入れて、郵便局へ出かけた。書類を書いたり、本をダンボールに詰めたりして、何だかんだで1時間以上はかかってしまったが、何とか手続きが終了した。重さは12kgを超えてしまい、料金は6000ルピーであった。船便なので日本までは約2か月かかるそうだ。書籍を送ることができて安心したせいか、数日後書店に行き、また大量の本を購入してしまった。今度は写真集とか旅行関係の本が主体で、これまたかなりかさばるようなので、これらも送ることとし、再度郵便局に出かけ、

前回同様に船便で送った。今度は前回送らなかったものも多少あるので、それらと共に計算してもらおうと10kgほどで、約5000ルピーとなった。前回のものと合わせると、11000ルピーとなり、日本円だと9000円くらいの金額だと思う。

もうこれで一安心である。あとは1か月あわてず、ゆっくり、過ごすこととした。それまでの自由な時間を利用してまず南西部の方へ小旅行をしてみたいと思った。旅行会社で働いている友人に車を手配してもらい、彼の運転で3泊4日の旅に出かけた。行先はルフナ紅茶の生産地をはじめとして、ゴール、ベールワラ、カルタラを回った。ルフナ紅茶の生産地を除いて、それ以外のところはこれまで訪れたことがあったが、あまり時間をかけて見て回っていなかったのので、今回は時間をかけて見て回った。

これまでスリランカの主な紅茶生産地は訪れてきたが、ルフナ紅茶の生産地だけは訪れたことはなかった。しかも、今までどの辺にあるのかあまりよく分からず、スリランカの人に聞いてもはっきりしなかったが、住んでいる家の大家さんが確かこの紅茶生産地の近くの出身だということを出し、彼に連絡を取って詳しく教えてもらった。彼によるとルフナ紅茶の産地はユネスコの世界自然遺産に指定されているシンハラージャの近くにあるとのことだった。しかも幸いなことに、彼の親類が紅茶工場を持っているので、その人を紹介してくれることと別な親類の家に泊まれるように手配してくれた。

ルフナ紅茶は他のスリランカ紅茶の生産地と比べると、標高600メートル程度のかかなり低地にあり、1500メートルを越える他の生産地とは大分異なる。当然味も香りも違う。ルフナ紅茶は濃厚な味わいがする紅茶で、ミルクティーにすると合うかもしれない。気に入り、1kgも購入してしまった。

ゴールは何度も来ているところなので今回はあまり見て回ることはしなかった。ここでは1泊し、翌日はベールワラへ移動した。ベールワラに



ケチマラ・モスク ベールワラのスリランカ最古のモスクの一つ



天皇誕生日祝賀パーティの様子

は大きなモスクが2つある。何せここはスリランカ・モスLEM発生の地なので、モスLEM人が多く住み、他の町とは雰囲気を変える。カルタラではRichmond Castle (リッチモンド・キャスル)を見学した。ここはある金持ちのスリランカ人が1896年に建てた邸宅で、ほとんど観光コースにはなっていない。こんな風にしてのんびり友人と旅行をした。

2週間ほどして知人から11月30日に「天皇誕生日祝賀パーティ」がコロomboであるので、出席しませんか、との連絡があった。帰国寸前なので、どうしようか迷っていたが、再度勧められたので、出席することにした。当日はSri Lanka-Japan Friendship Association (スリランカ日本友好協会)の主催で、コロombo・シナモン・レイクサイド・ホテルにて開催された。主だったスリランカ在住日本人と日本との関係があるスリランカ人が200人位参加されて盛大なものであった。在スリランカ日本大使^{ほほのぶひと}粗信仁氏ご夫妻も招かれていて、私も話をする機会を得た。

スリランカに住む日本人は300人程度で、多くはない。その上、最近では中国人や韓国人に押されて日本人の存在はあまり目立たず、一方中国人は政府の後押しで高速道路の建設や進出企業の労働者としてかなり目に付く。韓国人も同様である。私が所属するケラニヤ大学にも中国人の姿が多い。中国政府は世界中に孔子学院を作り、中国語と中国文化の普及に努めているが、孔子学院はケラニヤ大学にもあり、多くのスリランカ人が中国語を学んでいる。その上、何十台という最新式のパソコンも寄付するなど、国ぐるみで進出してい



祝賀パーティで粗大使ご夫妻と共に(右から2人目が筆者)

るといった具合である。

このようにして日本への帰国を真近にしてのあわただしい日々を過ごしていた。学生たちとの送別会や友人たちとの食事、来訪者との対応など人と会うことが急に増えて、最後の1週間は何かと忙しくなってしまった。

しかし、どうかかすべての準備を終え、12月3日の出発に向けて帰国前日は空港近くのホテルに泊まった。出発当日は朝7時15分発のフライトのためホテルに泊まったが、後は香港経由で帰るだけであった。香港には1週間滞在した。

長いと言えば長かった1年間だが、逆に短いと言えば短かった1年間、ともかくも無事に終えることができた。もう1年間どうかという話もあったが、私には1年間でもう十分であった。帰国すると、あまりにも寒い天候にただ驚くばかりであった。

為我井輝忠さんスリランカ帰国報告

日時：1月20日(月) 18:00～19:40

場所：中央公民館 視聴覚室

〈スリランカの日本語教育について〉

(日本語教育とスリランカ国の全体の状況について)

◆公開講座とし、「HATS国際学連絡協議会(「まちだ市民大学」HATSから派生した分科会)」と「日中文化交流市民サークル「わんりい」」には参加を呼びかける。

◆希望者による2次会(3,000円)
20:00～徳樹庵

◆申込：床呂 m-tokoro@mta.biglobe.ne.jp
☎042-734-3817又は090-1439-4348
参加者氏名と2次会の参加不参加を伝える

サハ共和国・ヤクーツクだより ⑧

杉嶋俊夫

これまでは「出来事」を中心に書いてきましたが、今回は「人物」に焦点を当ててみたいと思います。

私が以前滞在していたロシアの都市ではアパートに住むことが多かったのですが濃い近所づきあいを体験する機会はありませんでした。今回は滞在期間が短かったかわりに新鮮な体験ができました。寮に住んだことです(写真1)。大学の寮に住むこと自体は初めてではありませんでしたが、共用のキッチンで今回初体験しました。もう一点新鮮だったのは同じ階の住人たちが全員外国人だったことです。

私がお世話になった北東連邦大学は、日本ばかりでなく、韓国、中国、ベトナム、アメリカ、フランスなどの大学と協定を結んでおり、それらの大学の留学生が寮に住んでいます。私が滞在していた時はフィンランド、トルコなどの学生のほか、外国人教師も住んでいました。9割が留学生、1割が教師でした。

ヤクーツクはロシアの中では少々物価の高い町です。毎日外食などするとかなりの出費になってしまいます。寮でも大半の外国人は自炊中心の生活をしていたので、当然キッチンで食事をしたりお話ししたりする機会が多くなります。

また、大学でも国際部というところが外国人のためにヤクーツク市内外のイベントや名所を訪れる企画を度々組んでくれたので、そうした機会を通じてお互いに親しくなっていました。私にとってロシア人以外の大学生と生活の場を共有するのは初めての経験で、彼ら・彼女らの話は毎回とても新鮮でした。

ロシアではやはりモスクワやサンクトペテルブルグといった西側の「便利な」都市に留学生が集中する傾向が強いのですが、意外とロシア人の友達を作るチャンスが少ないようです。それに対してヤクーツクはこじんまりしている分、留学生が現地の学生と知り合う機会が多く、私の印象ではかなり友達を作っているようでした。

私の隣室には若いドイツ語教師の夫妻が住んでいました。本職は政治学の研究(大学院生)で以前にも旧ソ連に滞在した経験があり、その経験とロシア語力を活かして市内に広がる人脈を持っていました。ヤクーツクの町のことを知りたいと思っていた私にとっては



4か月弱お世話になった大学の寮 見た目は地味ですが内部はきれいで、立派な寮でした。12月から2月頃までヤクーツクはマイナス30度以下に気温が下がり、一日の大半を屋内で過ごす日が続きますが、今頃、寮に住む人々はどんなことをして長くて寒い冬を過ごしているのでしょうか・・・。

かけがえのない隣人でした。契約期間が終わって私より少し早くヤクーツクを去っていきました。

北東連邦大学が積極的に海外の大学と交流を始めたのは15年以上前のことで、大学の国際部にはそれなりの経験と知識の蓄積があります。それでも、外国人の立場になって自国の文化を見ることは案外難しいのでしょうか。

ある日、国際部の主任に、私が口琴に興味があることを告げると「口琴なんてあまりにもありふれていて外国人が聞いて喜ぶようなものだとは考えたこともありませんでした」との返事。「そういえば、今年からプロの口琴奏者がうちで働いているんです。早速ご紹介します」と言うので私を連れて行ってくれました。

紹介されたのは若い女性(写真2・3)で、昨年、大学を卒業したばかりだとのこと。年齢のわりに妙に落ち着いているなと思ったら、学生時代は女性口琴トリオ「アヤルハーン(AYARKHAAN)」のメンバーとして海外を飛び回っていたそうです(アヤルハーンはメンバーが数年単位で替わるしくみになっているらしく、今は彼女はメンバーではありません)。

「単に演奏家として口琴に関わるだけでなく、口琴



口琴奏者サイディコ・フォードロヴァ (Saydyko Fedorova) さん

国際部主任が口琴奏者として紹介くださったフォードロヴァさん(写真2右端)は大学では助手のほかに1年生のチューター(学習補助・生活指導)の業務も担当し、この日は、その1年生と韓国人留学生との交流会を、彼女と私が共同で主催しました。

この集まりでは最初は、参加者達はなかなかリラックスできない様子でしたが最後は何とか打ち解けたようです。

交流会の最後にフォードロヴァさんが口琴の演奏を披露してくれました(写真3)。留学生もサハ人学生たちも感激していました。ちなみに口琴は世界各地にあるのですが、なぜか韓国には、ないのだそうです。

の発生と分布、各々の民族文化で口琴が持つ意味、新しい科学的研究方法の可能性も探りながら、活動していきたい」と語ってくれました。彼女のように実践と研究の両方に取り組む若者がもっと増えてほしいものです。

最後に、口琴職人・レヴォリ・チェムチョーエフ氏(写真4)を紹介して、今回の稿の終わりとします。

サハ共和国には口琴職人が数多くいます。チェムチョーエフ氏はその中でも最高レベルの職人です。フォードロヴァさんのアドバイスにより氏に口琴を作っていただきました。自分用に一つ、知人用に二つ、氏の口琴を購入しました。掲載の写真は、その時に世界諸民族口琴博物館で撮った記念写真です。



口琴職人・レヴォリ・チェムチョーエフ氏(右)

《'わんりい' 掲示板》

◆わんりいの催し

中国語で読む・漢詩の会

▲場所：まちだ中央公民館・学習室7

▲月日：2014年1月19日(日)
2月9日(日)

▲時間：10:00～11:30

▲講師：植田渥雄先生(現桜美林大学孔子学院講師)

▲会費：1500円(会場使用料・講師謝礼など)

▲定員：20名(原則として)

*録音機をお持ちの方はご持参下さい。

◆申込み：☎050-1531-8622(有為楠)

E-mail: ukiuki65@yahoo.co.jp(同上)



◆わんりいの催し

ボイストレーニングをして 日本の歌を美しく歌おう!

◆動きやすい服装でご参加ください

▲場所：まちだ中央公民館・6F視聴覚室

▲月日：2014年1月14日(火)/2月25日(火)

▲時間：10:00～11:30

▲1月の練習歌「寒い朝」

▲講師：Emme(歌手)

▲会費：1500円(会場使用料・講師謝礼など)

▲定員：15名(原則として)

●申込み：☎042-735-7187(鈴木)

E-mail: wanli@jcom.home.ne.jp(田井)



◆まちだ中央公民館行き方：小田急線南口徒歩5分 / 横浜線ルミネ口徒歩3分 町田市原町田6丁目8-1 町田センタービル 109

恒例！ 'わんりい' 新年会、皆さんどうぞご参加を！

!!! 2014 'わんりい' 新年会・シュワンヤンロウで新年を祝おう !!!

場所：麻生市民館・料理室 (小田急線・新百合ヶ丘下車北口3分麻生総合庁舎内)

2012年2月2日(日) 11:00～14:00

- 定員：先着40名 ('わんりい' 会員と関係者のみ。お早めにお申込下さい)
- 参加費：1500円 (会場費、シュワンヤンロウ材料及び福引景品購入)
- 申込：メール / wanli@jcom.home.ne.jp TEL/FAX：042-734-5100 (田井)



第1回桜美林大学孔子学院
漢詩朗読・創作発表大会

<http://www.obirin.ac.jp/kongzi/news/koushi/2013/20140125.html>

2014年1月25日(土) 13:00～17:00
桜美林大学淵野辺キャンパス2F、202教室
〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺4-16-1

■漢詩講演会 13:00～14:00

講師：石川忠久 (斯文会理事長、全国漢文教育学会会長)
古典中国文学者。桜美林大学文学部長、二松学舎大学学
長・理事長、六朝学会会長など要職を歴任、又NHK漢
詩シリーズでも知られる。2008年瑞宝中綬章を受章。

■朗読・創作発表会 14:15～17:00

- ◆朗読の部 (中国語で朗読。創作でないもの)
 - ◆創作の部 (日本語使用可)
- 表彰：最優秀賞、優秀賞、審査員特別賞など

●主催：桜美林大学孔子学院

●問合せ&申込：TEL：042-704-7020
桜美林孔子学院事務所、第一回漢詩
朗読・創作発表大会担当者

岡上中国語研究会新会員募集

中国語を中国人先生から直接聞いて話して勉強してみま
せんか? 中国語初めての方大歓迎。直接見学も大歓迎。

- 毎週土曜日 10:00～12:00
- 麻生市民館岡上分館 (215-0027 麻生区岡上 286-1)
- 講師：劉 冠群先生 (北京出身)
- 会費：月謝 3,500 円
- お問合せ：☎ 044-988-2031 (本間^{ほんま})
E-mail: tizm2008@jcom.home.ne.jp. (和泉^{いずみ})

'わんりい' 190号の主な目次

北京雑感 (81) 報道の中の中国.....	2
諺・慣用句 (26)「鴻鵠 ^{こうこく} の志」.....	3
媛媛讲故事 (60)「南柯太守の夢V」.....	4
「中国の笑い話」(12).....	5
中国-城市めぐり (30)「通化市と集安」.....	6
雑記帳99「2014年、明るい年に」.....	9
日本探検記(十)「中国の教育事情について話す」...10	
「スターバックスでアルバイトを始めるまで」.....	11
大川健三氏・年賀状.....	13
文化の力「徳」を重んじる.....	14
スリランカ紹介(74)「アッパアにチャレンジ」...15	
'わんりい' 活動報告・2013夢広場.....	16
スリランカ・ケラニヤ便り⑧日々の生活の中で...18	
サハ共和国・ヤクーツクだより⑧.....	20
'わんりい' 掲示板.....	21・22

暮らす・装う・彩る
中国少数民族衣装展

<http://www.jcfc.or.jp/blog/archives/4431>

日々の暮らしの中で想いを込め
て作り出された雲南省・貴州省
の少数民族の刺繍、染め、織り...

- 入場料：無料
- 2014年1月29日(水)～
2月26日(水)
10:00～17:00/月曜日休館
- 会場：日中友好会館美術館
(JR総武線飯田橋東口7分、
都営大江戸線・飯田橋C3出口1分)



衣裳展会期中の会場での行事(事前の申し込み不要)

- ① 1月29日(水) 14:00～ギャラリートーク(約30分)
- ② 1月31日(金) 13:00～馬頭琴コンサート(約1時間)
- ③ 抽選会 中国グッズが当たります! 1月29日、30日(旧暦のおおみそか)、31日(春節=旧暦のお正月)、2月14日(元宵節=旧暦の1月15日)と会期中の土・日・祝に開催。
- ④ 2月4日(火) 12:30～二胡ミニコンサート(約30分)
- ◆ 主催：(公財)日中友好会館・文化事業部
- ◆ 問合せ：☎ 03-3815-5085 日中友好会館文化事業部

【2014年1月の定例会】

- ◆ 定例会：1月17日(金) 三輪センター第3会議室
13:30～
- ◆ 2月は恒例でおたよりの発行はありません。

新しい年が明けました。今年はどうなとしいになるので
しょうか。大きな自然災害が起こりませんように! そし
て、世界中の人々が明るい笑顔で向き合えるようにな
りますように!!